

48. リンゴ無ボルドー液防除体系における防除薬剤のリンゴ褐斑病および輪紋病に対する効果

福島県果樹試験場病理昆虫部・平成11年度試験研究成績書

1 部門名 果樹—リンゴ—病害虫防除 分類コード:04-01-23000000

2 担当者 菅野英二・尾形 正

3 要 旨

無ボルドー液防除体系において、リンゴ褐斑病に対する効果的な防除体系を策定するため、褐斑病に効果が高い薬剤を選抜するとともに、防除薬剤の効果的な使用時期を検討した。

(1) ‘ふじ’を対象に、パスポートフロアブル1,000倍、フリントフロアブル25 3,000倍、ユニックス顆粒水和剤47 2,000倍、トップジンM水和剤1,500倍を6月22日から8月18日までに計6回散布し、褐斑病と輪紋病の発生状況を調査した。また、効果的な防除時期を検討するため、トップジンM水和剤1,500倍を6月22日と7月2日(前期区)、7月15日と7月26日(中期区)、8月4日と8月18日(後期区)に散布する区と6回全て散布する対照区を設け、褐斑病の発病状況を調査した。

(2) 9月10日の新梢葉における褐斑病の発病葉率は、いずれの区も1%未満と高い防除効果が認められ、10月8日にはパスポートフロアブルとトップジンM水和剤の防除効果が高い結果となった。また、収穫時の褐斑病の発病果率はユニックス顆粒水和剤47が6.3%で、フリントフロアブル25が0.9%であり、それ以外の薬剤は0%であった。しかし、輪紋病に対しては、いずれの薬剤でも発病果率が33.3%~74.8%と高く、防除効果が劣った。

(3) 散布時期の違いによる褐斑病に対する防除効果については次のとおり。8月11日の発病葉率は後期区で3.9%とやや高かったが、9月10日には全て区で発病葉率が増加し、特に中期区が26.5%と高かった。10月8日の発病葉率は前期区と中期区は90%以上となり高かったが、後期区は35.0%で比較的低く、対照区は4.9%とかなり低かった。果実については、後期区と対照区のみが発病果率0%であった。

(4) 以上の結果から、供試した試験薬剤は褐斑病に対する防除効果は高いが、輪紋病に対して防除効果が劣るので、輪紋病防除剤との混用が必要と考えられた。また、褐斑病に対する防除時期は今回試験した6月下旬から8月中旬までは必要であり、果実感染防止のために、8月の防除が必要と考えられた。